

合併を振り返る

合併協議会に学識経験者として参画した2人に、思い出や今の久慈市に望むことを聞きました。



合併協議会の思い出

合併協議会は、私たち市民が話したことを取り入れるという考えが強かったです。何かを提案すると、次の会議までに検討してしつかり回答してくれました。行政はもちろん基本的な案については示しますが、一方的に決定することは一切ありませんでした。すぐく実りのある会議でした。

協議で伝えた思い

久慈は海の魅力、山形は山の魅力この両方を生かして、人口減少をいかに歯止めをかけていくかが重要と伝えました。教育旅行にも海のプログラムを追加すれば魅力が上がると提案したのを覚えていません。また高齢化が進むので、みんなで助け合う仕組みづくり、市全体で交流しながら生活を支え合う方法をいろいろと考えました。どの施策にしても久慈と山形の両方を生かせる場をつくることに気を使いました。

合併後の変化

お互いの魅力が合わさった

合併協議会の思い出

山形村としては、合併協議にあたり、まず村としてさまざまなデータを集めました。合併をしない場合、将来を予測すると人口減少や地方交付税の落ち込みによって、村の運営が難しくなるという見通しでした。そのような予測の中で、合併しなければならぬというのが、その時の状態だったと記憶しています。

協議で伝えた思い

山形村は、久慈市と比べると人口規模も10対1くらいでしたが、合併する条件としては対等合併。そして、大きな市になっても、山形村のように住民一人一人が目が届く行政であってほしいと伝えました。総合支所の機能についても、他の支所よりも充実した機能としてほしいということを強くお願いしてきました。

また、山形村独自の文化・伝統については守り続けたい、合併しても継続していきたい、というのが住民の思い。合併協議委員みんなも同じ思いだったと思います。



たかや じゅんこ
高谷 淳子さん

(大川目町 74歳)
久慈市・山形村合併協議会委員
久慈市社会福祉協議会ボランティア
活動センター 運営委員長
みどりの子ども会 世話人

ので市としての魅力は上がったと思います。福祉や医療の面では、小さな自治体では難しかったことも大きな自治体になったことで、全体にきめ細やかなサービスが提供されるようになったと思っております。地域を見ればいろいろと問題はありますが、市全体を見れば合併で自治体としての力は強くなったと思います。

今後の久慈市に望むこと

山形の人の人情は素晴らしい、小さな村だからこそ助け合って生きてきた、それを見んな学ばなければならぬと思います。そういった心は今の少子高齢化の中で、絶対必要なことだと思えます。行政ば

合併後の変化

合併から10年以上が経過しましたが、総合支所については、年々機能が縮小してきていると思えます。小さくても一つの自治体でしたので、役場にそれなりの人の出入りがあって交流がありました。総合支所になって人の交流が減少し、山形のにぎわいが減ってきているのではと心配しています。

協議会でお願してきた山形独自の文化は全て継続しています。また、住んでいる人の気持ちも変わらないと思っております。行政がやれないようなことは、住民が自主的にやる、地域は自分たちで守るといった思いが強く、それ

はしもと みのもる
橋本 實さん

(山形町 61歳)
久慈市・山形村合併協議会委員
プレステック(株)代表取締役
やまがた地域振興協議会 会長
ガタゴンまつり実行委員会 会長

かりに頼ってはいられない。市の中でも交流を増やして助け合って行く必要があると思えます。

市外の方がたくさん久慈に来る工夫も必要だと思います。久慈、山形と考えるのでなく、一つの久慈市として、そして広域の市町村とも協力して人を呼び込まなければならぬ。久慈には魅力ある人たちがたくさんいる、そういった人を生かしてほしいです。都会には体験を求める人がたくさんいるし、今の時代はネットやSNSを使って、それをつなぎ合わせるができる。そうやって全国から人を呼んでくるのが、久慈も山形も生かせるし、市が生き残る手段だと思えます。

今後の久慈市に望むこと

総合支所の機能を充実させてほしいです。ある程度の機能さえあれば、あとは住民たちで地域づくりをしていけると思えます。また、市は久慈とか山形とか関係なく全体の奉仕者。人が多い少ないではなく全部に目を向けて、よりきめ細やかな対応をしていたければと思います。今の時代は行政任せではダメ。行政の仕事はしっかりと対応してもらい、地域は住民たちの力で盛り上げるようになるべきだと思います。

山形の思い 久慈の思い

